

1. 背景

色の見え方、感じ方は、人によって異なるため、色を表現および伝達するために、古来より様々な方法が用いられている。一定の範囲内にある色を伝えるためには、色名による表現が用いられており、「JIS Z 8102 物体色の色名」^[1]においても、269 色の慣用色名が定められている。

JIS に収録されている慣用色名は、固有色名のうちのごく一部である。他の色に関する情報源においては、様々な固有色名が記載されており、また各色名に対して提示されている色彩情報も、情報源ごとに異なっている。

人々が、特定の色名の、特定の情報について調べようとした場合、その色名が収録されており、かつ目的とする色彩情報が提示されている情報源を探す必要がある。しかしながら、これまでの色に関する情報源や情報検索システムでは、このような情報源を検索することはできない。

2. 目的

本研究は、色に関する情報を、ユーザの要求に応じて適切に提供出来るようにすることを目的として、色彩情報と色に関する情報源を提示する方法を提案する。

3. 色彩情報の分析

色に関する情報源のうち、色名ごとに色彩情報が記載されている情報源(以下、色彩情報源)6件を、本研究の研究対象とした^{[2]~[7]}。

研究対象色彩情報源の「色名を特定する情報」および「色に関する情報の種類」の分析を行った。

分析の結果、「色に関する情報の種類」および「色名を特定する情報」は、色彩情報源ごとに異なっていることが判明した。研究対象色彩情報源 D の分析結果を図1に示す。

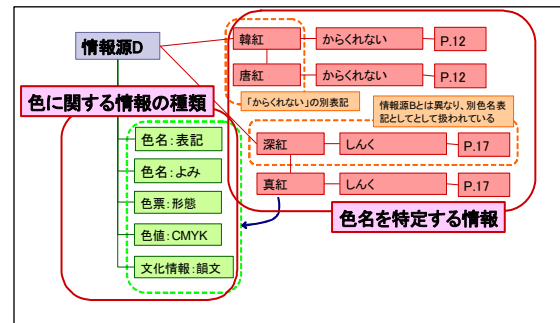


図 1. 研究対象情報源 D の分析結果

4. 色彩情報の構造化

4.1 色彩構成情報テーブル

「色に関する情報の種類」を整理して、色彩情報源ごとに「色彩構成情報テーブル」を構築した。その結果を表 1 に示す。構築の際には、研究対象色彩情報源以外にも、22 種類の色彩情報源の調査も行い、色彩構成情報テーブルの構成要素を確認した。

表 1. 色彩構成情報テーブル

色名	固有色名表記	固有色名よみ
	系統色名	略記号
色票	素材	発色
	形態	
発色	素材	材料
	手順	
色値	HVC	CMYK
	XYZ	NCS
	RGB	
色イメージ	写真	絵画
文化情報	慣用句	散文
	韻文	その他
情報源情報	索引・目次	参考文献

4.2 色名情報マトリクス

「色名を特定する情報」を、「色名情報マトリクス」

* “Presentation of Color Information and its Resources” by Mizuho SHIBUYA

として色彩情報源ごとに蓄積した。「色名情報マトリクス」では、1つの色名表記に対する複数のよみや別表記を「関係性」として扱い、図2に示す通り、点在する色名を繋げて、グループを形成した。

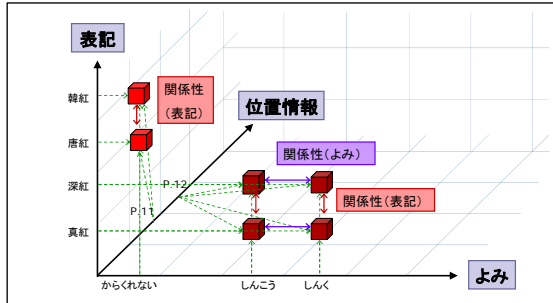


図 2. 研究対象情報源 C の色名情報マトリクス

4.3 色彩情報リンクテーブル

「色彩構成情報テーブル」と「色名情報マトリクス」を結合するために、各色彩情報源に収録されている色名表記とよみの組み合わせを、色彩情報源別に収めた「色彩情報リンクテーブル」を作成した。色名「韓紅花」の作成例を図3に示す。なお、「〇〇色」のように「色」のあるなしや、振り仮名の違いといった微妙な差異は、「揺れ」として、表記とよみの軸内に吸収することとした。

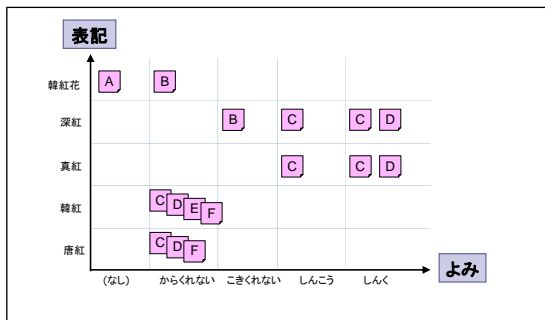


図 3. 色彩情報リンクテーブル

5. 色彩情報の結合

「色彩情報リンクテーブル」により、「色彩構成情報テーブル」と「色名情報マトリクス」とを結合させたことにより、ユーザの求める色彩情報と色彩情報源の提供が可能となった。

6. 結論

1つの色彩情報源を、「色彩構成情報テーブル」と「色名情報マトリクス」に分解し、「色彩情報リンクテーブル」を用いて再結合することにより、「色に関

する情報の種類」と「色名を特定する情報」を明確に区別して提供することが可能となった。これにより、色名表記やよみ、色彩情報源など、どのような色彩情報を基点としても、最終的には、求められている色名に関するすべての色彩情報とその色彩情報源を提供することが可能となった。

この結果、「色彩情報ネットワーク」が構築され、ユーザの様々な要求に応じることができる、色彩情報と色彩情報源の提供が可能となった。

7. 考察

「色彩情報ネットワーク」によって、どのような色彩情報を基点としても、最終的には同じ質と量の色彩情報とその色彩情報源の提供が可能である。また、この「色彩情報ネットワーク」は、言語を限定せずに収録および提供が可能である。

しかし、「色彩情報リンクテーブル」の「揺れ」や、文章内に色名および色彩情報が点在している情報源の扱いについては、検討が必要である。

今後は、「色彩情報ネットワーク」のシステム化を試みるとともに、より多くの色彩情報源を収集することにより、その可能性を検討していきたい。

文献

- [1] 日本工業標準調査会. JISZ8102 物体色の色名. (参照 2010-02-04). <URL:http://www.jisc.go.jp/app/pager?id=9208>
- [2] 黒板勝美, 國史大系編修會編. 延喜式. 新訂増補. 東京, 吉川弘文館, 1961, 3冊.
- [3] 長崎盛輝. 日本の伝統色: その色名と色調. 初版. 京都, 京都書院, 1996, 358p.
- [4] 小学館辞典編集部編. 色の手帖: 色見本と文献例とでつづる色名ガイド. 初版. 東京, 小学館, 1986, 216p.
- [5] 小学館辞典編集部編. 新版 色の手帖: 色見本と文献例とでつづる色名ガイド. 初版. 東京, 小学館, 2002, 251p.
- [6] 永田泰弘監修. 日本の269色: JIS規格「物体色の色名」. 初版. 東京, 小学館, 2002, 157p.
- [7] ネイチャー・プロ編集室構成・文. 色々な色: Colors of nature. 京都, 光琳社出版, 1996, 215p.